

SANS FRONTIÈRES

vol.47

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryu.ac.jp/>

医歯薬講座 北里大学出張講義



10月22日、北里大学の出張講義が開かれました。本校では、今年度初めて講義を依頼しました。大学についての紹介の後、大学の先生によるオンライン講義が行われました。

○「海洋生物の毒から薬へ」

海洋生命学科 准教授 高田健太郎先生

○「臨床工学技士の仕事と学部で学ぶ内容」

医療工学科 准教授 酒井利奈先生

今回は、コース生の感想のうち2編を、全文紹介します。

【生徒の感想 臨床工学】

「まず、臨床工学士の仕事は病院内のみにとどまらず、厚労省や各市区町村、NPO、企業など幅広いことを知り、とても驚きました。履修科目には、病理学や解剖学はもちろん、医用工学総論や生体物性材料工学など特性の分野も含まれており、大変な学部だと思いつつ同時に、社会に大きく貢献することができる職に就く能力を身につけることができると考えました。医用工学総論の模擬授業においては、人工関節置換術中のハンマーでの骨の打ち込みによる骨折などの医療事故の対策を聞き、とても納得しました。トンネル内の音響を利用してハンマリング音の周波数を解析したら防げるのでは？という考えは、私だったら思い浮かびません。日常を医療に応用できないか？と考える姿勢をもって生活したいと思います。」

【生徒の感想 海洋生命科学】

「今回の講演で、研究とは誰も答を知らない新たな世界を発見するためにする事だということが分かりました。ウミウシは、とても謎の多い生物で、餌生物が何なのか分からないが、この1つの問いの答えを見つけるだけで、様々なメリットがあるということがすごいと思いました。水族館での長期展示が可能になったり、家庭でペットとして飼うことができるようになって、1つの産業の重さを知ることができました。毒を持つ生物は、本来は、自分の身を守るためか、命をつなぐために毒を持っているため、人が簡単に操っても生態系に問題が起きないのかが疑問に思いました。海洋生物から、人に良い効果のある薬をつくることは、すごいことだと思います。」

医歯薬講座 救急救命講習会 (2-2)



10月9日(金)、今年度2回目の救急救命講習会が開かれました。今回は2年2組17名が参加しました。まずは前半に応急手当の目的と重要性を学びました。次に心肺蘇生の実習を行いました。心肺蘇生の手順を確認した後、講師の

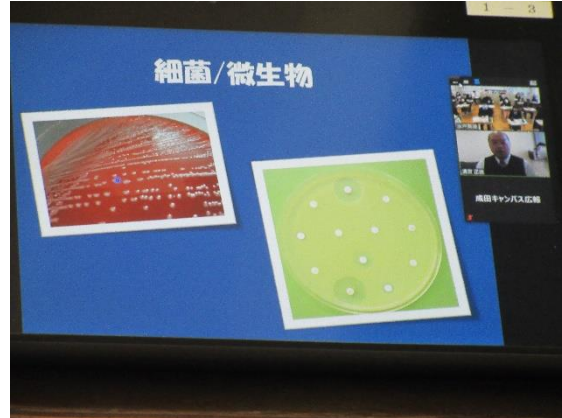
補助を受けながら生徒一人ひとりが心臓マッサージ、人工呼吸を行いました。後半ではAEDの講習を受けました。AEDの操作自体は音声ガイドに従って行えばよいので難しくはないですが、現場に居合わせた知らない相手に対して、個別に119番通報とAED依頼をしなければなりません。その流れを確認した後、級友を現場に居合わせた知らない相手と想定して、積極的に声をかけ、AEDを使用する一連の流れを体験しました。胸骨圧迫(心臓マッサージ)やAEDを使用した救命処置は、救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで続ける必要があります。救命処置を続けるためには体力も必要であると実感しました。

3学期には1年生も救急救命講習会に参加する予定です。

心肺蘇生の手順

- ①周囲の安全確認
- ②意識の確認
- ③119番通報とAED依頼
- ④呼吸の確認
- ⑤胸骨圧迫(心臓マッサージ)
- ⑥人工呼吸
- ⑦AEDの使用

医歯薬講座 国際医療福祉大学出張講義



11月5日、国際医療福祉大学の出張講義が開かれました。国際医療福祉大学は、医療の総合大学で、今回は4講座の中から選択して、2つの講座を受講しました。

- 「きっと見つかる！自分にあった専門職」 医療福祉・マネジメント学科 教授 山本 康弘先生
- 「病院の中の科学者・臨床検査技師」 医学検査学科 教授 清宮 正徳先生
- 「ウイルスとたたかう・ウイルスでたたかう」 薬学科 講師 小川 拓哉先生
- 「あなたらしさを支える一言語聴覚士のお仕事」 言語聴覚学科 講師 小森 規代先生

こちらにも、コース生の感想文を2編、全文を掲載します。

【生徒の感想 言語聴覚】

今回の講義では、言語聴覚士について詳しく学ぶことができた。『言語聴覚士は人の尊厳を支える仕事』であることを改めて感じた。特に、症例紹介の中で実際のリハビリ映像やエピソードを聞き、最初は発音が明瞭ではなかった子が、はっきり発音できるようになったり、失語症の方が話することができるように回復していたりと、やはり言語聴覚士は人の尊厳を支える職業だと思った。また、患者の様子だけでなく、患者の家族の様子や、推測にはなるが気持ちから、患者の家族の事も支えることの重要性を学ぶことができた。更に、1つの病に対して発症する障害は1つだけとは限らないため、他職種とのチーム医療も大切になってくるだろう。実際に大学の先生の講義を受け、国際医療福祉大学で言語聴覚士を目指したいと強く思った。」(3年生)

【生徒の感想 医療福祉入門】

「今回は医療福祉の現場で活躍する専門職についてお話していただき、その中で、初めて知る職業があり、特に、『診療情報管理士』や『社会福祉士』に興味を持ちました。診療情報管理士は、その病院内の患者さんのカルテに記載された情報を一括して管理でき、医師の事務業務をサポートすることで、医師は患者さんの診療、治療に専念でき、医療機関の経営をよりよくすることができることは、とても素晴らしいことだと思います。また、社会福祉士の仕事は、障害や貧困などにより自立生活が困難な人へのアドバイスやサポートをすると知り、『作業療法士による住宅改修のアドバイスをする時、患者さんのニーズに合わせて、社会福祉士が経済的なアドバイスをする』と先生が例を挙げていて、「チーム医療」の形を改めて知ることができました。先生が『ナースステーションがスタッフステーションに変化している』とおっしゃっていて、これから医療機関において、いろいろな専門職の人に仕事が分担されていくなかで、患者さんのためによりよい医療を提供するには、関わる医療の専門職について知識を深めていきたいと改めて感じることができました。」

自分の考えを書くということ

今回は、コース生の感想の全文を掲載しました。手直しが必要な所も多少はありますが、講義を聞いた上で「自分の考え」を持ち、それが適切にまとめられています。

「自分の考えを書く」というのは、簡単なように見えて、難しいものです。書いている内に、考えが深まることもあります。

入試に小論文を課す大学も多くあります。普段から自分の考えを書く訓練が必要です。